

1日目〔16日〕 ◇エクスカージョン
 ヨン（共同で行う野外調査）
 ◇第1回日中韓トキ意見交換会

初日の16日は、エクスカージョンとして、主に島外の参加者がトキの森公園、大膳神社能舞台、佐渡金銀山を視察し、トキや佐渡の歴史、伝統文化を学びました。

また、トキ交流会館では、「日中韓トキ意見交換会」が行われ、各国の関係者約30人が、トキの餌場整備や農家の負担などの課題について話し合いました。



大膳神社能舞台（真野地区）

2日目〔17日〕 ◇現地調査
 ◇基調講演・各国報告・分科会
 ◇交流会

17日は、午前中に3つのグループにわかれ、①第7回日韓田んぼの生きもの調査交流会現地調査（新穂長畝地区）②（新穂西部地区・金井新保地区）③持続可能な農業と農村社会現地調査（丸山地区）を行いました。



田んぼの生きもの調査

午後からは、基調講演、各国からの実践報告やテーマごとに課題を話し合う分科会が行われました。

基調講演では、国連大学の武内和彦副学長から「生物多様性が育む持続可能な農業・農村」と題して、自然との共生の重要性についてお話いただき、各国報告では、日本、中国、韓国のトキに関する取り組みなどについて報告されました。

分科会では、「生物多様性農業と生きもの調査活動」「生物の多様性を育む農業技術の探求」「多様な主体が参画した持続可能な農業と農村社会づくり」の3テーマについて、各国の農家や研究者による提案をもとに議論が行われました。

また、夜には交流会が行われ、羽茂高校郷土芸能部や鷺崎鬼太鼓保存会による佐渡の伝統芸能が披露され、参加者の交流を深める機会となりました。



鷺崎鬼太鼓保存会 羽茂高校郷土芸能部

3日目〔18日〕 ◇分科会報告
 ◇共同宣言

最終日は、各分科会からの報告に基づき、共同宣言が採択され、これからの農業のあるべき姿、方向性が確認されました。



分科会報告の様子

- ・農業・農村の持つ基礎的で多面的な価値と生物多様性に対する水田農業の重要性を確認
 - ・生物の多様性を育みそれを活用する農業技術の発展を、それぞれの立場から、共通の課題として追及していくこと
 - ・環境と生物多様性の価値を共有する多くの市民が生まれていることを確認し、生きもの調査活動などを通じて農の重要性を確認
 - ・生物多様性の危機を克服するために、世界の人々が英知を結集して協働することに深く貢献すること
 - ・生物の多様性を育む農業を発展させ、次世代につなげることで、生物の多様性と豊かな地域経済の再生をめざしていくこと
- また、10月にインドで開催されるCOP11への提言をまとめ、3日間の日程を終えました。
- 《COP11への提言》
- ① 生物多様性の喪失を食い止め、その

向上を図る上で、農業のあり方が重要な役割を果たすことを確認し、生物多様性を育む農業の推進を各締約国と関係機関の農業政策の基礎に置くこと。

② 生物の多様性を確保するためには、生物多様性を育む農業を意識的に進める必要があることを確認し、各国で取り組まれている生物の多様性を育む農業の実践事例を提供し、各締約国と関係機関で支援する枠組みを構築すること。

③ とりわけ水田農業が生物の多様性に大きくかわっていることを再確認し、水田における生物多様性の向上をめざすことを生物多様性条約の決定および愛知目標の具体化として意識し、そのような取り組みを各締約国と関係機関で推進すること。



共同宣言・COP11への提言（左から）蘇雲山氏、板垣実行委員長、朴仁子氏



閉会のあいさつ 稲葉副実行委員長